

志津川にコミュニティーセンターを

私たちは、あの忌まわしい3月11日の東北大震災の津波で、自宅、職場、家族、……、何もかもを失ってしまいました。震災の当日から志津川高校避難所で避難所が閉鎖になる8月末まで、共に半年という長い時間を過ごしてまいりました。避難所では避難所を運営するスタッフとして住民の方と共に生活をしてまいりました。

衣食住、何も無い状態からのスタートでした。電気・ガス・水道などインフラも町も行政も崩壊してしまった状態でした。当初は通信手段もなく、満足な支援などいただけませんでした。足りない分をどのようにして補っていったらいいのか、メンバーで知恵を出し合い、とにかく外に現状を発信し続けてきました。そのおかげで、外部のたくさんの支援団体の方に長い間お世話になりました。そして、どの支援団体の方とも今でも深く繋がり続けています。とても感謝しています。

私たちは、避難所の厳しい生活状態をいかに改善し、快適に過ごせるようにするかを常に頭において、日々ミーティングを繰り返しながら被災者全員で努力していきました。その結果、互いを思いやり、励ましたり、助け合いの出来るとてもいい関係と環境をつくり上げていけたのではないかと自負しております。

避難所を離れる多くの方々が「ここから離れたくない」という思いを訴えながら、それぞれの新たな生活の場である仮設住宅に引っ越して行きました。小さな子どもからお年寄りまで……、とても大きな家族みたいな関係だったような気がします。

避難所が閉鎖という具体的な期日が迫って来たときに、私たちは、このまま閉鎖と共に全てを無くしてしまっても良いのだろうか？という思いに駆られました。今まで築いた住民同士の関係や各支援団体の方々との関係など。断ち切ってしまったら……。住民は離れ離れになってしまっても、また多くの人々が集まる場所を欲しがっているという思いも分かるし、支援団体も私たちスタッフにまだ支援の窓口として継続していった欲しいという願いも届いておりました。まだ何か出来るのではないかと何かしなければならぬのではないかとという思いが日々、強くなっていきました。

そんな時、支援団体の方からバックアップするので私たちに支援の継続をしてみないか？という話が浮上してきました。無力で無知な私たちだけでは、とても立ち上がるなどできませんでした。しかし、支えになっていただける方々が次々と表れてくれたおかげで、知恵と力を貸していただきながら、何とか再び力を合わせて被災者だけれど支援活動をしていこう！微力な力が集まれば支援を必要としている方々を助けていける！と立ち上がることを決意しました。

震災によって町の全てを失ってしまったと言っても過言ではない状態です。土地も建物も仕事も何もかも無いのです。狭い狭い仮設住宅に押し込められ、我慢を強いられ、息が詰まるような生活をこれから何年もしていかなければなりません。

息を抜く場所が必要なのです。同じ辛い思いを抱えた被災者同士が語り合える大きなコミュニティーセンターが必要だと強く感じました。出来ることなら半年間、ずっと避難所として使わせていただいた志津川高校の土地と建物をそのまま使わせていただけたら…とも思いました。しかし、学校です。生徒の皆さんに今まで避難所提供で不自由な生活を送らせてしまいました。現在も校庭の半分は仮設住宅で埋まっています。住民や学校側との間で様々なトラブルも予想されます。無理なのは分かりきっています。ならば、それに変わる場所は？と考えたときに志津川高校のすぐ下に位置する町の所有している「慈恵園」という場所が目につきました。浸水区域ではあるものの、多少は高台である。緊急時の避難経路も確保出来ている。敷地は広いし、公園も駐車場もある。眺めも良い。交通の面を考えても国道が近くを通っていてどの方向へも行くことも可能である。そしてなにより、「慈恵園」としては現在の場所で再開しないと聞いている。町としても特に今の段階で予定はないという。ならばその場所をコミュニティーセンターとして使っていけないだろうか？とも思いました。

私たちは何も分からない素人の集まりですが地元に住み、地元のことをよく知っているつもりです。でも、その場所が欲しい！ベストな場所なのではないだろうか？という思いは今でも変わりありません。どのようにして訴えていけば良いのかも分かりません。力もありません。しかし、訴えてみたいと、私たちの思いを述べました。

ただ、現状では、「慈恵園」という土地の使用が難しいという事実を、私たちは知り、あきらめました。しかしその代わり、そのすぐ近くの民有地を借りて、自前のコミュニティーセンターを作るべく活動の拠点を置くことにいたしました。何も持っていない私たち。小さなことしか出来ませんが、とりあえず私たちの自立と住民の支援活動が出来るようにまず小さくお店を作って行きたいと思います。

只今、試行錯誤を繰り返しながら計画中です。年内オープンを目指して頑張っているところです。

2011年10月28日

M3 R- a b c

代 表 内田智貴

副代表 内海明美

幹 事 内田卓磨

(旧志津川高校避難所スタッフ)

M3R-abc : 「南三陸町で ABC から始めよう」という思いを込めた私たちの団体名です。